

投光器 学習版

国労東海貨物協議会
2013年6月10日 No.35
発行責任者 鈴木 和巳

なに— 過去最低を切り込むだって!

何を言っているのか? 貨物会社の経営陣の姿勢に職場から怒りをぶつけろ!

6月6日の第3回夏季手当交渉で会社は今期の夏季手当について「過去最低の支給実績をも切り込まなければならない」と言及した。

会社は3年連続の黒字達成に関して「社員の頑張り」を認めながらも社外からの指摘による「鉄道事業部門の赤字拡大」に危機感を持つ中で、事業計画達成のためにも人件費に手を付けるとしている。



果たしてこんなことが許されるだろうか? 人件費に手を付けることは会社の最終手段であり、その前にやるべきことが色々ある筈である。我々社員の数倍収入がある役員の数も減らさず、具体的に鉄道部門の黒字化に向けての施策も持たずに簡単に人件費に手を付ける会社姿勢は一般的にも有り得ない。経営陣は過去からの経営矛盾を先送りし、経営失敗の責任も取らずに社員への犠牲で乗り切ってきた。今後も鉄道部門の黒字化が見えていないにも関わらず、今回も過去と同様に乗り切ろうとしています。このまま行けばいつまでも社員犠牲の経営が続くことは間違いありません。



期末手当は生活給である実態を更に訴えよう!

会社は過去の交渉で、期末手当が生活給という認識を持っていることは明らかであり、生活給として1.5ヶ月という数字が出ていた筈であるが、今回は過去の交渉経緯を認めるものの「一般会社においての話」とすり替えてきた。期末手当交渉の中での発言をすり替える会社の姿勢には怒りを覚えます。

現在、貨物社員の多くは「マイカー・住宅・教育」など多くのローンを抱え生活し、そしてローンの多くはボーナス返済を併用している実態だと思われます。また、生活実態調査からも期末手当が生活費の補てんに使用されている事実もあります。私たち貨物社員にとって期末手当はまさに生活給であり、それが低額に抑えられることは生活悪化に直結します。



「貨物会社は社員の生活に責任を持って!」の声を会社に届けよう!

この投光器学習版は国労東海本部のホームページにも掲載されています。

国労東海本部のURLは <http://www.kokurotokai.com> です!